

研究課題：全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパスモデルの開発

課題番号：H20-がん臨床-一般-002

研究代表者：独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 谷水正人

## 1. 本年度の研究成果

がん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパスモデル（以下「連携パス」）の開発を進めた。

- 1) 連携パスひな型の開発と提供：5大がん（肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん及び乳がん）について代表的な治療計画を例に連携パスのひな型を研究開発し、ホームページ (<http://soudan-shien.on.arena.ne.jp/hina/index.html>) に公開した。同ホームページにはひな型の提供だけでなく、がんの連携パス成立のための課題、ネットワーク構築のあり方、専門病院、かかりつけ医、コメディカル、患者の視点からの課題を提示した。連携パス開発者支援のために本研究班オープンカンファレンスを本年度も開催し、ひな型開発のための講演会を実施する（H22年2月14日開催）。また班員はそれぞれのひな型を作成し連携パス普及のためのテキスト出版に供するなど啓発活動を全国各地で行った（発表論文を参照）。
- 2) がん診療における地域連携クリティカルパス開発の現況調査：本調査は毎年実施する。本年度はH21年12月に発送し翌年1月に集計する。昨年度の本調査後6ヶ月経過の時点で本班が把握した県統一の連携パスは胃がん5（作成進行中8）、大腸がん3（7）、乳がん3（7）、肺がん3（6）、肝がん1（6）であった（和歌山医大事務局中阪氏の都道府県拠点病院調査に独自調査を追加して集計）。班員の聞き取り等によると平成21年度から県統一の連携パス開発が全国で急展開中である。しかし連携パスの運用では、適応症例を多く集積する拠点病院は少なく多くの拠点病院は試験運用の段階であり、連携パスの効果分析は今後の課題である。
- 3) がん診療における地域連携パスが成立するための要件については初年度に引き続き検討・整理を進めた。(a) 地域連携基盤の構築：地域の共同開発、ネットワークの構築が必要である。多職種連携を目指す必要がある。4疾患5事業として連携パスの様式が統一されることが望ましい。愛媛県を例に挙げると、愛媛県がん診療連携協議会に連携パス開発分科会が設置されている。そこが中心となり県医師会、県行政に相談しつつ、病院医療連携室参加の研究会、愛媛クリニカルパス研究会の協力を得てパス開発を進めている。H22年3月に愛媛県下7拠点病院合同で連携パス披露の講演会が開催される。(b) 連携のための医療者サポートの必要性：連携医療の開始時には医師に心理的圧迫、作業量の増加を強いるため、医療者（特に医師）へのサポート体制と人材の投入が必要である。(c) 連携のための患者サポートの必要性：患者にはかかりつけ医の確保が重要であることを丁寧に説明するとともに、患者の不安や疑問を複数の医師に過不足・遅滞なく伝え、相談に応えるコーディネーター機能（人材）が必要である。

## 2. 前年までの研究成果

- 1) 本班発足当時の状況として、がんの連携パスは期待感のみが先行し、明確な定義、作成の方針が示されていなかった。初年度の本班では下記の事項について連携パスを整理し、公開した。(a) がん診療における地域連携クリティカルパスの目的、(b) 5大がんの地域連携クリティカルパスの定義、(c) 5大がんの地域連携クリティカルパスの作成指針、(d) 連携パスとして用意する4つの要素：医療機関の役割分担表、共同診療計画表、私のカルテ（患者が携帯する連携の情報共有ツール）、医療連携啓発のパンフレット、ポスター。
- 2) がん診療における地域連携クリティカルパス開発の現況調査：連携パスの現況把握のためアンケート調査を実施した（調査期間：平成21年1月5日～20日）。対象：がん診療連携拠点病院351および東京都がん診療認定病院10施設。方法：病院長宛にアンケートを郵送。結果：214通の回答（回収率59.4%）が得られた。(a) 平成20年12月末現在、胃がん14、大腸がん15パス、乳がん15パス、肺がん7、肝がん6、前立腺がん3、膀胱がん1、緩和1、子宮がん1の計63パスが把握でき、胃がん459人、大腸がん250人、乳がん276人、肺がん28人、肝がん11人ががん地域連携パスで医療を受けていた。(b) 連携パス作成の単位は、県統一パス2、2次医療圏統一3、病院独自パス17、その他3であった。都道府県がん診療連携拠点病院が中心となり県統一パスを目指す動きが21年1月の時点で31県あった。また県単位の医療機関アンケート、患者会アンケートも実施した。
- 3) 5大がんのうち、肝がんを除く4種のがんについて連携パスのひな型を作成し、インターネットホームページに公開した。平成21年11月までに1700件のアクセス、約1100件のひな型ダウンロードがあった（ホームページアドレスは前出）。
- 4) 平成21年3月8日に本研究班のオープンカンファレンスを開催し、全国のがん診療連携拠点病院から約300名の参加を得た。

## 3. 研究成果の意義及び今後の発展性

本研究班では地域連携パスのひな型とパスの稼働を可能とする仕組みを提案していく。取り組むべき今後の課題は以下の通りである。

- 1) ひな型の開発：a) ひな型の開発と提示（継続し、公開する連携パスの種類を増やす、b) 連携パスの全国での開発状況を調査公表（継続）、c) 連携パスのパスライブラリページの構築。
- 2) 連携パスを稼働させるための仕組み作り：a) 必要とされる連携コーディネート機能の要件について検討を進める、b) 連携の基本的技術の整理、マニュアルを作成する、c) 連携コーディネート担当者研修に取り組む。

がんの連携パスの開発はがん医療の質の向上と安心・安全を確保したがん医療連携の推進につながる。

## 4. 倫理面への配慮

本研究では患者情報の個人情報情報は研究対象としない。成果物を利用して各個人の診

療に活用する場合には診療録と同等の扱いとし、診療録等個人情報保護規定を厳守する。研究、検証には個人情報情報は抹消してデータを収集・検証する。連携パスの臨床症例への適応に当たっては医療機関の診療情報管理委員会、パス審査委員会、臨床研究審査委員会等各施設所定の委員会の審査、承認を得る。

## 5. 発表論文

1. 谷水正人 緩和ケア病棟における地域との連携 緩和ケア 19(5) 419-422 2009
2. 谷水正人 他 5大がん地域連携パスと連携体制構築の進め方 乳がんの地域連携パス活用と連携体制構築 地域連携 network2 巻2号 118-124 2009
3. 河村進, 船田千秋, 谷水正人, 松久哲章 いまこそ地域連携! 地域連携のいまとこれからを探る いま、なぜ地域連携が重要なのか 地域医療の現状と退院調整の活動から考える 薬事 51(1) 19-25 2009
4. 谷水正人 他 がん領域における地域連携パス導入のために 医師・看護師・薬剤師のための外来化学療法実践セミナーin 横浜 2009 日本在宅医療学会編 高橋慶一監修 癌と化学療法社(東京) 80-86 2009
5. 松久哲章 谷水正人 他 がん化学療法における患者支援ツールの開発 経口抗がん剤の円滑な薬薬連携を目指して 日本クリニカルパス学会誌 11(2) 127-135 2009
6. 谷水正人 がん診療連携拠点病院とは 井部俊子 開原成允 京極高宣 前沢政次 編集 在宅医療辞典 中央法規出版(東京) 55 2009
7. 谷水正人 がん難民とは 井部俊子 開原成允 京極高宣 前沢政次 編集 在宅医療辞典 中央法規出版(東京) 57 2009
8. 谷水正人 がん診療における地域連携に必要な要件 岡田晋吾 谷水正人編 パスでできるがん診療の地域連携と患者サポート 医学書院(東京) 5-7 2009
9. 谷水正人 がん診療における地域連携パス概説 岡田晋吾 谷水正人編 パスでできるがん診療の地域連携と患者サポート 医学書院(東京) 41-44 2009
10. 佐藤靖郎 胃がん・大腸がんの地域連携パス活用と連携体制構築 地域連携 network Vol.2 No2 108-117 2009
11. 佐藤靖郎 地域連携クリティカルパスのIT化 地域連携パスのIT化はどのようにしたらよいですか? 武藤正樹監修 東京都連携実務者協議会編: 一歩進んだ医療連携実践 Q&A じほう(東京) 40-41 2009
12. 佐藤靖郎 がんの地域連携クリティカルパスの実際 地域連携クリティカルパスと疾病ケアマネジメント 中央法規出版(東京) 58-68 2009
13. 梨本篤: 未分化型胃粘膜内癌に対するESD適応拡大の可能性. 胃と腸 44(1):101-117, 2009.
14. 梨本篤: 胃癌の適切なフォローアップ計画 癌と化学療法 36(9):1402-1407, 2009
15. 松井恒志, 梨本篤: 進行胃癌術後化学療法としてS-1の投与方法についての検討. 癌と化学療法 36(6):953-957, 2009
16. 里井壯平, 他 関西医科大学附属枚方病院における消化器癌診療と地域連携 日本クリニカルパス学会 in press

17. 北村 臣 里井壯平 他 電子カルテシステムにおけるクリティカルパス管理とその運用 – 診療情報管理士と医療情報技師による医師・看護師のパスへの業務負担軽減の試み– 日本クリティカルパス学会 11(2) 213-216 2009
18. 田城孝雄 地域連携のためのネットワーク構築の類型化 4 疾患 5 事業のネットワーク構築 岡田晋吾 谷水正人編 パスのできる がん診療の地域連携と患者サポート 医学書院(東京) 19-31 2009
19. 田城孝雄 【高齢者医療における退院支援の現状と課題】 退院支援におけるパスの意義 Geriatric Medicine 47 (3) 347-350 2009
20. 佐藤靖朗 がん診療における地域連携パス 胃がん 岡田晋吾 谷水正人編 パスのできる がん診療の地域連携と患者サポート 医学書院(東京) 45-56 2009
21. 住友正幸 がん診療における地域連携パス 肺がん 岡田晋吾 谷水正人編 パスのできる がん診療の地域連携と患者サポート 医学書院(東京) 65-68 2009
22. 朝比奈靖浩 がん診療における地域連携パス 肝がん 岡田晋吾 谷水正人編 パスのできる がん診療の地域連携と患者サポート 医学書院(東京) 69-80 2009
23. 青儀健二郎 がん診療における地域連携パス 乳がん 岡田晋吾 谷水正人編 パスのできる がん診療の地域連携と患者サポート 医学書院(東京) 81-88 2009
24. 武藤正樹 地域連携を考える 地域医療連携と保険薬局の役割 調剤と情報 15 1228-1230 2009
25. 武藤正樹 【始まる「栄養連携」! 地域で取り組む NST】 「栄養連携」への取り組みの現状とその成果 地域連携 network2 巻 4号 104-111 2009
26. 武藤正樹 【連携室の「成果」は何で測る?】 新たな時代の連携室評価はどのように行うのか 地域連携 network2 巻 3号 64-71 2009
27. 武藤正樹 5大がん地域連携パスと連携体制構築の進め方【がん連携パス活用と連携体制構築の現状 地域連携 network2 巻 2号 102-107 2009
28. 下村裕見子, 池田俊也, 武藤正樹 【リハビリテーション医療の質と効率】 クリティカルパスと地域連携 総合リハビリテーション 37巻 5号 419-425 2009
29. 武藤正樹 【08年診療報酬改定後の地域医療動向 急性期、回復期、慢性期病院はどう動いたか<ケーススタディ分析>】 08年診療報酬改定が地域医療連携にもたらしたインパクト 地域連携 network2 巻 1号 88-95 2009

## 5. 研究組織

①研究者名	②分担する研究項目	③最終卒業校・卒業年次・学位及び専攻科目	④所属研究機関及び現在の専門(研究実施場所)	⑤所属研究機関における職名
谷水 正人	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	岡山大学医学部 昭和57年・医学博士・消化器内科	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 統括診療部・臨床研究部	統括診療部外来部長

河村 進	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	川崎医科大学医学部・昭和56年・学位なし・形成外科	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター形成外科	外来部長
藤 也寸志	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	九州大学医学部・昭和59年・医学博士・外科	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター消化器外科	統括診療部長
池垣 淳一	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	群馬大学医学部・昭和57年・医学博士・麻酔科	兵庫県立がんセンター麻酔科	緩和医療担当・麻酔科部長
奈良林 至	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	山形大学医学部大学院・平成元年・医学博士・病理	埼玉医科大学国際医療センター緩和医療科	緩和医療科教授
望月 泉	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	東北大学医学部・昭和53年・医学博士・消化器外科	岩手県立中央病院	副院長兼消化器外科長兼外科長
佐藤 靖郎	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	福島県立医科大学昭和63年・医学博士・外科	社会福祉法人恩賜財団 済生会若草病院外科	副診療部長兼外科部長
武藤 正樹	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	新潟大学医学部大学院・昭和53年・医学博士・外科	国際医療福祉大学大学院	教授
住友 正幸	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	徳島大学医学部・昭和56年・学位なし・呼吸器外科	徳島県立中央病院外科	医療局次長、外科総括部長
梨本 篤	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	新潟大学医学部・昭和50年・医学博士・外科	新潟県立がんセンター新潟病院	臨床部長
林 昇甫	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	兵庫医科大学医学部・平成6年・学位なし・外科	市立豊中病院緩和医療科	医員
田城 孝雄	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	東京大学医学部・昭和59年・医学博士・内科、公衆衛生学	順天堂大学公衆衛生学	准教授
里井 壯平	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	関西大学医学部博士課程・平成11年・医学博士・外科	関西医科大学外科	講師
朝比奈 靖浩	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	滋賀医科大学・昭和63年・医学博士・内科、消化器科	武蔵野赤十字病院	消化器科部長
池田 文広	がん領域における地域連携クリティカルパスの作成とその運用に関する研究	群馬大学医学部・平成3年・医学博士・乳腺内分泌外科	前橋赤十字病院	乳腺内分泌外科、副部長